

高速増殖炉研究開発センター

○「もんじゅ」プラント作業状況



【アルゴンガス、窒素ガス供給系計装点検】

(撮影日：平成25年2月15日)

「もんじゅ」は冷却材にナトリウムを使っており、(密閉された)容器やタンクなどの中のナトリウムは、空気と触れないようにアルゴンガスで覆われています。また、万が一のナトリウムの漏えいに備えて一次系ではその部屋を常時窒素ガスで満たしています。このようにアルゴンガスや窒素ガスの供給は重要で、正常に行われるように計器類の点検も確実に実施しています。

原子炉廃止措置研究開発センター

○「ふげん」プラント状況



【ゴムライニング貼付け作業】

(撮影日：平成25年2月15日)

「ふげん」の廃棄物処理設備にある汚濁水タンクは、運転中の液体廃棄物処理設備において廃液の濁りを除去するためのタンクですが、廃止措置期間中も長く性能を維持する必要があるため、タンクの腐食防止のためのゴムライニングを張り替え、機能を維持しています。

国際原子力情報・研修センター

○エネルギー研究開発拠点化計画の一環として、エネルギーや環境に関する学校教育への支援を行っています



【敦賀市立栗野中学校3年生 出前授業
「知ることから始めよう」放射線のいろいろ】
霧箱実験の様子】
(撮影日：平成25年2月19日)

さいくろミーティング(地域訪問活動)実績
(平成13年10月～)
件数:1,518件 人数:36,227人
(平成25年4月4日現在)

編集後記

人が感じられる味覚は「甘味」「酸味」「塩味」「苦味」「うま味」の5つとされています。この5つの味のどれか1つが欠けても味の魅力が半減してしまいます。例えば、すいかに塩をかけて食べるのは、より「甘味」を感じたいために、酢豚の「酸味」を抑えたい時は砂糖を加えたりします。このように、どれか1つの機能だけでは、美味しい食事が仕上がります。全てのバランスがとれてこそ、美味しい食事が仕上がります。私は、人としての魅力もこの5つの味と同様だと感じています。人の魅力にも、優しさや誠実さ、心の強さなど様々な魅力があります。ひとつの魅力だけが突出していても、それ以外の部分で大幅に欠けていては、魅力ある人間とは思えないのではないのでしょうか。私自身、バランスのとれた心と態度で魅力を増していきたいと思っています。また、味を認識する過程のことを「味わう」といいます。味わいのある話、味わいのある語り、日本人は昔からの魅力の味に例えています。結果が全てと言われがちな世の中ですが、後からじわじわと感じる過程(味わい)も大切に、私自身の仕事に活かしていきたいと思っています(K)。

● 本資料に関するお問合せ先 ●

日本原子力研究開発機構 敦賀本部 業務統括部広報課

Tel : 0770-21-5023 Fax : 0770-25-5782 ホームページアドレス <http://www.jaea.go.jp>

発行：平成25年4月4日



原子力機構 敦賀本部からのお知らせ

巻頭挨拶

皆様方には日頃より、「もんじゅ」における高速増殖炉の研究開発、「ふげん」における原子炉廃止措置研究や「レーザー研究」など原子力機構の事業に、多大なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「もんじゅ」におきましては、電気・計測制御設備等について、点検時期の延長、点検間隔・頻度の変更の手続きに不備があることが分かり、保安のために必要な措置や、原因究明・再発防止策の検討及び根本原因分析等を行い、1月31日にその結果を原子力規制委員会へ報告するとともに、保安検査でのご確認等を踏まえ、点検を計画的に実施し、設備の健全性維持と再発防止対策に取り組んでおります。

「もんじゅ」プラントの状態を確認し、安全性に影響ないことを確認しておりますが、このような事態が生じたことは、地元の皆様に「もんじゅ」への信頼を損なう結果となってしまう、深くお詫びいたしますとともに、本件を重く受け止め経営上の重要課題であるとの認識の下、しっかりとしたプラント運営管理の礎を形成してまいります。

ついで、4月1日付けで「もんじゅ」の運営・保守管理を徹底するための体制強化並びに安全性強化への対応体制の充実・強化を図りました。

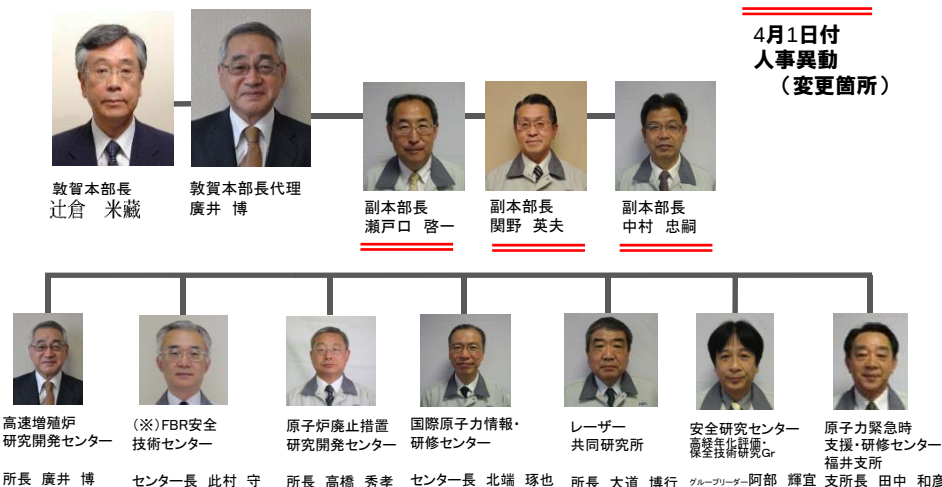
また、現在、原子力防災にかかる地域などの各種計画も見直しが進められております。今後とも、「もんじゅ」及び「ふげん」の安全確保に努めるとともに、原子力防災対策について、万全を期してまいりますので、ご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。



敦賀本部長
辻倉 米藏

敦賀本部体制図(平成25年4月1日)

平成25年4月1日付けで、以下のような新体制となりました。一丸となって業務運営に取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。

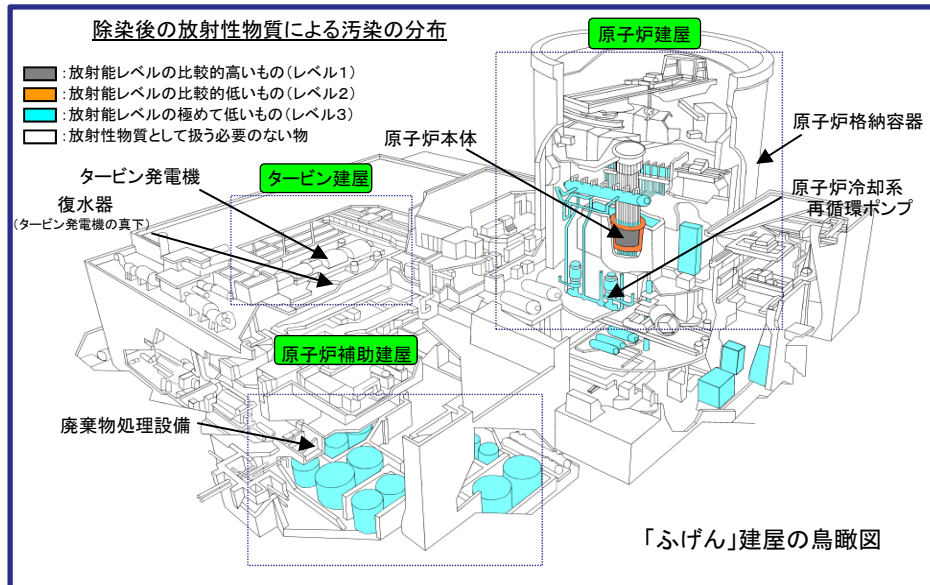


※「もんじゅ」の安全性強化への対応体制の充実・強化のため、「FBR安全技術センター」を設置しました。

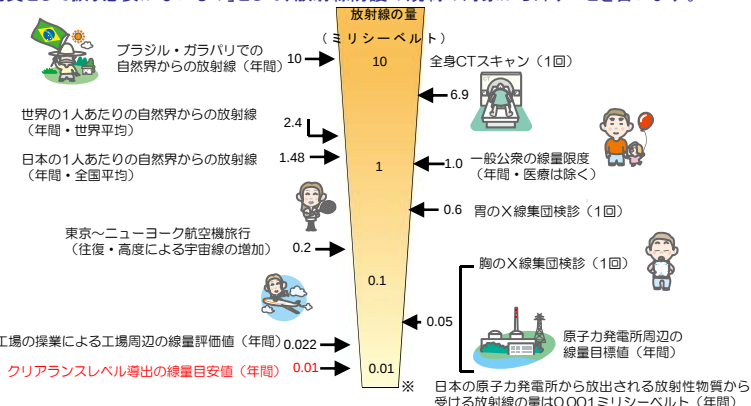
“原子炉廃止研究開発センター「ふげん」のクリアランス(※1)制度運用に向けた取り組み(その1)”

原子炉廃止措置研究開発センター「ふげん」は、平成20年2月12日、解体方法等を記載した廃止措置計画の認可を受け、施設の廃止措置に着手し、平成45年度末の完了を目途に廃止措置を進めています。安全を最優先に原子炉の廃止措置の先駆的役割を果たすとともに、廃止措置研究や高経年化調査研究を通して福井県のエネルギー研究開発拠点化計画にも協力しています。

下図は、約25年間運転をした「ふげん」建屋の鳥瞰図で、必要に応じて除染(放射性物質を取り除く作業)を行った後の放射性物質による汚染の分布を表したものです。原子炉本体以外の放射性物質による汚染は極めて低いものとなっているのが分かります。平成20年2月から解体作業を開始し、これまでのタービン系設備などの解体撤去作業で出たクリアランス対象物(写真参照)を、法律に定められている所定の手続き及び確認を経て可能な限り再利用に供することや産業廃棄物として処理・処分することとしており、現在、クリアランス対象物として取り扱うための測定及び評価方法に関する法律に基づく手続きのための準備を進めています。(次回のお知らせでは、クリアランス制度の導入に向けた準備状況を紹介します。)



※1 クリアランス…放射性物質量が自然界の放射線レベルに比較して十分小さく、人の健康への影響がないものとして、「放射性物質として扱う必要がないもの」として、放射線防護の規制の対象から外すことを言います。



復水器(クリアランス対象物)の解体作業状況
平成25年1月撮影



解体撤去物の一時保管状況(タービン建屋)
平成25年3月撮影

これまでタービン系設備で解体されたタンクや配管(パイプ)などの金属類を、50cm程度の大きさに細断して、金属製のメッシュボックスに納めて一時保管しています。

“平成24年度福井県における

高経年化調査研究会(成果報告会)の開催”

原子力機構では、原子力安全基盤機構(JNES)からの委託を受け、原子力発電所の高経年化対策に関連した調査研究活動を進めております。この調査研究活動の一環として、平成25年3月7日、「福井県における高経年化調査研究会」を、敦賀本部アトムホールにて開催しました。

本研究会は、25年間の運転実績のある原子炉廃止措置研究開発センター「ふげん」の実機材を実際に利用し、様々な手段で計測を行ったデータの発表となりました。約40名の専門家の参加のもと本研究会は、予定時間を超える活発議論がなされ、参加者からは、これらのデータは日本にある原子力発電所(軽水炉)の高経年化対策の一助となる貴重なものであることから、データを速やかに国内外の学会へ報告し、国際的な基準となるように展開するべきとのご意見をいただきました。また、最先端の解析手法などについても、多くの有意義なご意見をいただきました。

今後、いただいたご意見を参考にし、更に高経年化研究に進めるとともに、福井県が進める「エネルギー研究開発拠点化計画」の推進方針の基本施策の一つである「安全・安心の確保」への貢献として、高経年化研究に積極的に取り組んでまいります。



すぐれた技術 確かな安全 世界に示す 新生「もんじゅ」